綾瀬川の玉石積み護岸保全と橋復元をめざして

CNCP 理事
NPO 法人エコロジー夢企画
理事長　三井元子

エコ夢探検隊 2016

玉石積み護岸が残っていた！

私が理事長を務めるＮＰＯ法人エコロジー夢企画では、平成 15 年から綾瀬川で生物生息環境調査を行ってきた。年に 1～2 回は親子参加の調査「エコ夢探検隊」を行っている。綾瀬川は、全国１級河川水質ワースト１を長く続けてきた河川である。しかし、近年では、水質も改善しアユも遡上してくるようになった。当会では、平成 26 年から埼玉県環境科学国際センター金澤光氏の指導を受けながら、上流域も含めて本格的な調査を行っている。結果、アユは東京湾から本流を通って最上流の蓮田市まで遡上していること。卵から孵ったアユ（流下仔アユ）が都内を通って海へと下っていることが確認できた。そこで、28 年度の「エコ夢探検隊」では、アユ目線で綾瀬川を登ってみようと、Ｅボート体験を盛り込んで実施した。

河口から 10 ㎞の左岸にある八潮市大曽根ビオトープは、私たち市民団体が見つけて、国に買い取ってもらい、保全してもらった多自然ワンドである。そこにある「せせらぎ池」でこどもたちと魚調査をした後、Ｅボート２艇に乗って綾瀬川を登った。

綾瀬川の玉石積み護岸
（昭和 29 年・同地点）

すると、コンクリート護岸の続く殺風景な綾瀬川にあって、なんと昭和 30 年ごろまで使われていた玉石積み護岸のなごりが 300m くらいに渡って残っていたのだ。今まで、川岸からしか見ていなかったのでわからなかったが、ボートから見たので、はっきりと確認できた。感動して参加者に説明していると、同行していた国土交通省江戸川河川事務所の専門官が「今度ここもコンクリート護岸になります！」という。江戸か明治の頃からの名残である玉石積み護岸を残した上で護岸整備はできないものか。

実は、私がこの自然地を発見した時、地図には「御立野跡」という地名が残っていたので、なにか由緒がある土地ではないかと思い、調べた。すると、このあたり一帯が江戸城の茅場の御用地であったことが分かった。その後、明暦の大火で茅葺き屋根が禁止となり、瓦屋根になった事からこの土地も払い下げになったという。保全計画検討会に参加した八潮市と足立区の住民からは、両市区を結ぶ人道橋を作ってほしいとの強い要望があったが、保留となってしまった。その後、ワンドの横提を作った場所に、将軍が鷹狩をするときに渡る「御成橋」という橋の袂があったことが分かった。対岸の橋の袂の両脇に「御成橋」という屋号を持った家が２軒残っており、昔は茶店をだしていたという。

明治になって足立区側に帝国煉瓦株式会社というレンガ工場ができる。この地域から煉瓦に適する荒木田土が多く出たからである。明治時代の建物の煉瓦の多くがここから生産された。手狭になってきたので、大正 7 年に左岸の八潮市側に土地を求め、資材を搬入する幅１間７分ほど「帝国橋」という橋を作った。それが、むかし「御成橋」があった同地点に架けられたのである。そして帝国橋は、昭和 28 年の洪水で流されるまで現存していた。

平成１８年に制定された多自然川づくりの概念には、「河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも 配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うこと」とある。平成９年の河川法改正から 20 年，折しも現在、国交省では、「かわまちづくりによる地方創生」に力を入れている。綾瀬川で、玉石積み護岸を残した護岸補強の在り方を考え、さらに歴史ある橋の復元を行って地域の活性化を推進していくことを強く望む。